

# 危機下の子どもたち

2026年、UNICEFは、133の国と地域で、2億人以上の子どもたちが人道的支援を必要とすると推定しています。

## ウクライナ

ウクライナで続く戦争は、壊滅的な状況のまま5年目に突入しようとしている。2025年4月以降、攻撃は一層激化し、重要なインフラの破壊が続いており、子どもたちの命を危険にさらし、不可欠な社会サービスを混乱させ、メンタルヘルスにも深刻な影響を与え続けている。2026年には、推定1,080万人が人道的支援を必要とし、その中には220万人の子どもと380万人の国内避難民が含まれる。紛争による破壊と避難は、基本的サービスへのアクセスを損ない、保護やジェンダーに基づく暴力のリスクを高めている。占領地域にいる子どもたちは、人道支援をほとんど受けられない状況にある。



## シリア

14年にわたる紛争の後、シリアの子どもたちは依然として深刻な脆弱性に直面している。2024年末の政権交代により、歴史的な変革の機会が訪れ、子どもや若者に新たな希望をもたらしている。この機会を生かし、国の復興と再建を支援することが不可欠である。進展はあるものの、シリアは依然として世界で最も複雑な人道危機に直面しており、大規模な帰還、経済の悪化、気候ショック、損傷したインフラによりニーズは増大している。国内避難民190万人以上と難民110万人、合わせて300万人（うち170万人が子ども）が帰還した地域は、基本的サービスへのアクセスが限られている。



## パレスチナ

ガザ地区での紛争と、東エルサレムを含むヨルダン川西岸地区での暴力の激化により、多数の死傷者、避難民、子どもたちに対する深刻な保護リスクが生じている。少なくとも330万人が支援を必要としている。最新の「総合的食料安全保障レベル分類(IPC)」の分析によると、2025年9月時点でガザ地区全域が飢きん状態にあり、生後6〜59カ月の子ども10万人と、妊娠中または授乳中の女性3万7,000人が消耗症の治療を必要としている。ユニセフは停戦を歓迎しているが、人道支援関係者が対応を拡大し、ガザの子どもたちが切実に必要とするシステムの復旧に取り組む機会が不可欠である。ヨルダン川西岸地区では、東エルサレムを含め、80万人以上が医療と水・衛生の支援を、15万人以上の子どもが教育へのアクセスを必要としている。



## ハイチ

ハイチの人々は、武力紛争の激化、大規模な避難、生活に不可欠な社会サービスの崩壊、水系感染症の再流行、栄養不良の広がり、繰り返される気候ショックや自然災害が重なった最悪の状況に直面している。武装集団は首都ポルトープランスの約9割を支配しており、国連は2024年に武装集団による子どもの徴用・利用の事例を300件以上確認した。これは2023年のほぼ2倍にあたる。暴力は北部にも広がり、商用や人道支援のルートが遮断されている。推定140万人が避難しており、その中には74万1,000人以上の子どもが含まれる。さらに、2026年半ばまでに約570万人が深刻な食料不安(IPCフェーズ3以上)に陥る可能性がある。



## バングラデシュ

バングラデシュでは、ロヒンギャ難民をめぐる人道危機が長期化しており、解決の見通しは立っていない。さらに、ミャンマーで続く紛争と不安定な情勢により、新たな難民がバングラデシュに流入しているため、人道的ニーズが一層深刻化し、受け入れコミュニティへの負担が増大している。ミャンマーの治安が不安定で、安全で自発的な帰還が困難であることから、2017年以降、難民人口は115万6,000人に増加し、その半数以上が子どもである。ロヒンギャ支援への資金削減で、子ども向けサービスは大幅に縮小され、困難な選択と運営上の変更を余儀なくされている。



## コンゴ民主共和国

コンゴ民主共和国では、東部での紛争の激化、大規模な避難民の発生、繰り返される保険上の緊急事態、アクセスの制約、保護リスクの増大、深刻な食料不安、気候ショックが重なり、長期的な複合危機に直面している。重大な人権侵害が横行し、性暴力の残虐性が悪化している。(2025年初めに報告された約1万件の事例のうち、子どもが40%以上を占めている。) 東部では約1,200校が廃墟となるか避難所に転用され、160万人の子どもが学校に通えず、搾取や虐待、徴用の危険にさらされている。



## スーダン

スーダンは、世界で最も深刻な人道危機に直面している。3,370万人が命を守るための緊急支援を必要としており、そのうち1,730万人は子どもである。紛争により950万人が避難を余儀なくされ、不可欠なサービスは崩壊し、2,100万人以上が深刻な食料不安に直面している。ダルフールやコルドファン地域の一部は飢きん状態にあり、即時の人道的アクセスと大規模な他分野連携が不可欠である。紛争が始まってほぼ3年、子どもたちは紛争、避難、疾病、飢餓という複合危機に囚われている。重なり合う脅威に対して、緊急かつ包括的で、子どもを中心に据えた対応が必要とされている。



## ミャンマー

ミャンマーの人々の生活は、紛争と避難によって引き起こされた人道危機に、自然災害、経済不安、生活に不可欠な社会サービスの崩壊が重なり、悪化の一途をたどっている。こうした複合的な要因により、人々の生活と生計は破壊され、360万人近く（その3分の1以上が子ども）が国内避難を余儀なくされ、家や学校、地域社会から追われている。2025年3月28日に発生したマグニチュード7.7の壊滅的な地震と、その後の235回以上の余震は、すでに限界に達していた対応能力にさらなる負担をかけ、より多くの家族を極度の脆弱な状況に追い込んでいく。

